

：：園生の森の下草について：：

森は昔のような手入れがされなくなり、木々が光を求めて《^{じゆかん}樹冠競争》をしています。そのため、林床の植物に光が届かなくなっており、暗さに強いアズマネザサやヤツデ・アオキなどが増えています。

これらが増えると、光が必要な弱い植物が消えてしまいかねません。そのため、千葉市はアズマネザサを予算のある限り刈ってくれていますが、ヤツデやアオキは鳥が実を食べて種を落していくので、どんどん増えます。

そこで、時々「森を育てる会」のメンバーが刈り取ったり、葉を採ったりしています。アズマネザサは鎌がないと刈れませんが、ヤツデやアオキなどは折ることで葉がダメになり、増えにくくなります。時々、ヤツデやアオキを取っていますが、森を明るくするためですので、ご了承ください。

夏に保護植物のキツネノカミソリが咲くよう、春先には落ち葉かきをしています。植物にとって《光》はとっても大切なものなのです。（育てる会）



ヤツデ



アオキ